

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 5 月 9 日 10:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,600～38,000 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 36,500～42,200 ドル
(S&P500) 4600～5750

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 17,600～20,300
(ナスダック総合) 15,700～18,300

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 140.000～150.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～103.000

(おしらせ) 今回号より「ナスダック」の分析対象にナスダック 100 を追加します。

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



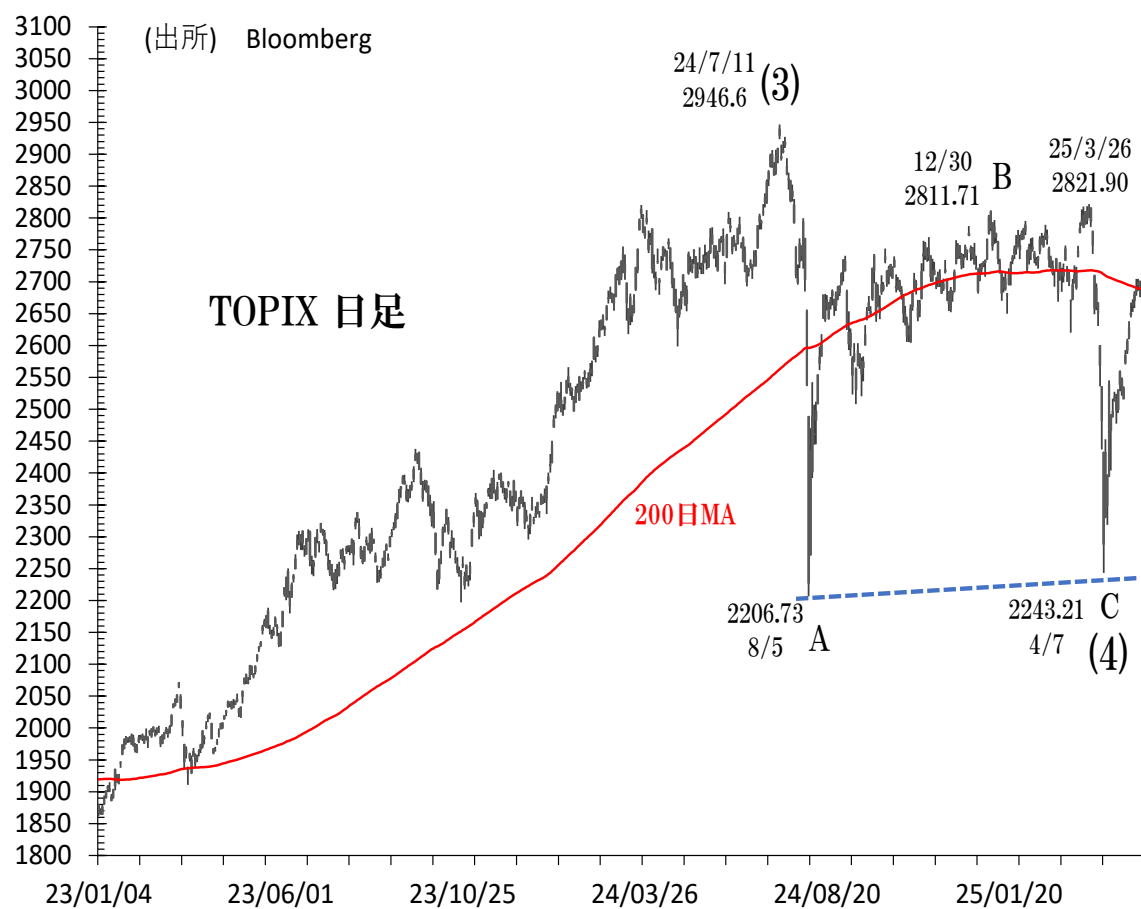
【週足 エリオット波動分析】

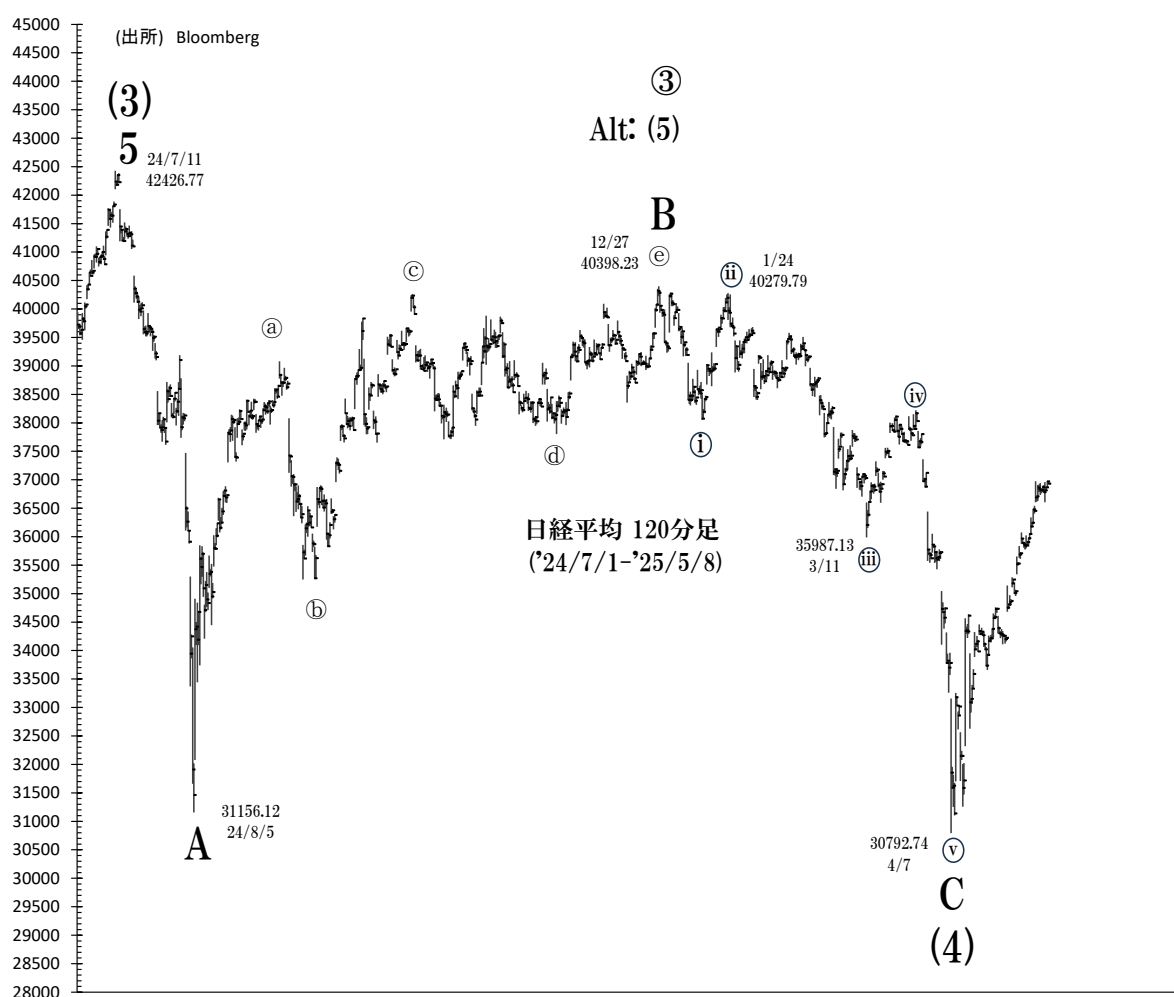
日経平均は、重要サポートとしての 200 週 MA を上回って推移しています。同 MA を今後も維持する限り、プライマリー上昇③波は依然継続中とみられます。

日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇を展開中とみられます。

昨年末時点では、2025 年に付ける日経平均の第(5)波メドを 4 万 3000 円～4 万 5000 円としていました。しかし米ナスダックの本格調整局面入りがより濃厚となっており、ナスダックの影響を大きく受ける日経平均の第(5)波高値は、当初の想定より低くなりそうです。

例えば TOPIX の第(5)波が 24 年高値(2946)を上回る可能性は高いと思われますが、一方で日経平均は 24 年高値(42,426 円)を上回ることができないかもしれません。このような、二つの指数間の「未確認」(天井パターン)出現の可能性に留意が必要でしょう。





【日足・時間足 エリオット波動分析】

30,792 円(4/7 安値)から、インターミディエイト級第(5)波による上昇が進行中とみられます。

ゴールデンウィーク明けの 5 月 7 日、TOPIX は、200 日 MA を終値で上回りました。この日の高値は 2704 であり、年初来高値 2821 (3/26)にもうすぐ手が届きそうな水準まで戻してきました。

一方、日経平均は 75 日 MA(37,110 円)に接近しながらも、200 日 MA(37,960 円)には 1000 円ほど足りません。ましてや年初来高値(40,288 円)ともなると、現水準から約 3000 円も離れています。

TOPIX 優位は継続しており、TOPIX が日経平均に先行する流れは今後も続くでしょう。

足元水準では「やれやれの売り」や目先筋の利確売りなどを受け、指数の上値は重くなっています。もっとも足元の信用買い残が 7 カ月ぶり水準に減少するなど、時間の経過とともに需給の改善は進んでいます。今は第(5)波上昇がより鮮明になる前の、エネルギーを貯めこむ局面といえるかもしれません。

(オルタナティブ・カウント)

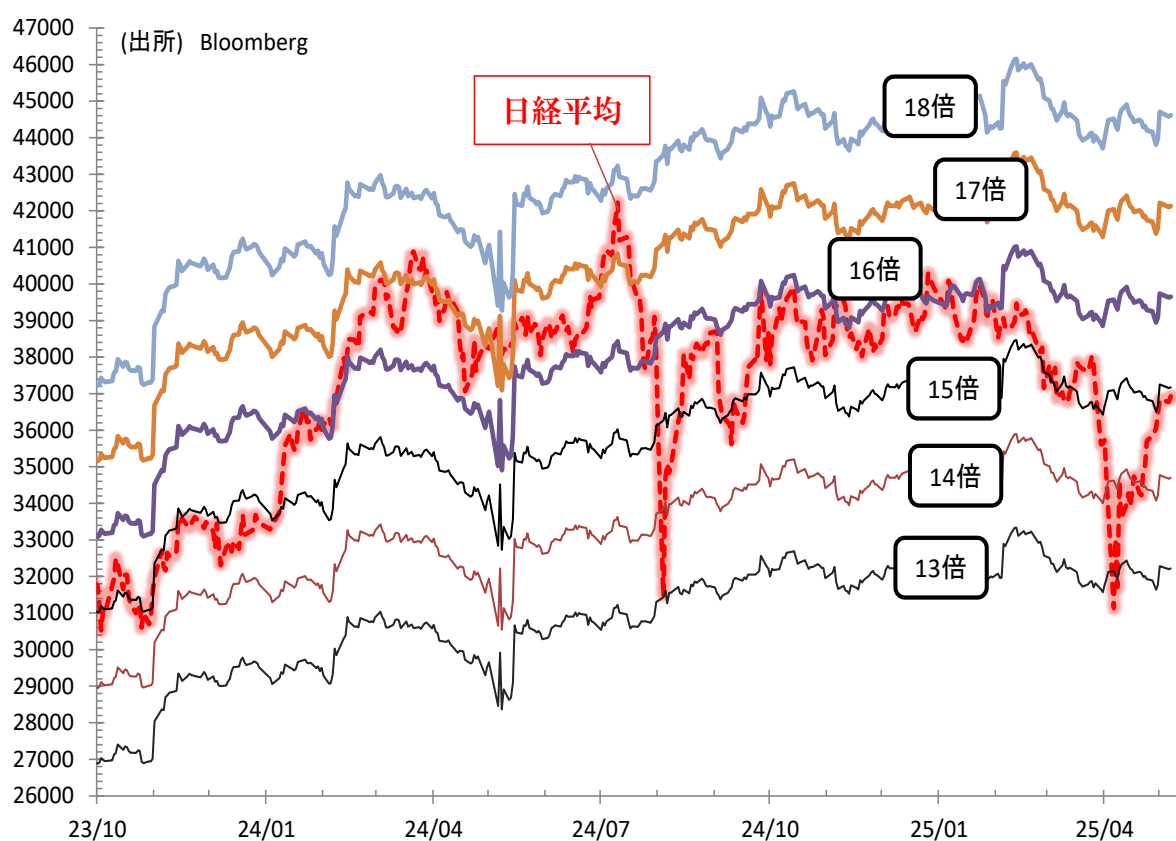
30,792 円を下抜くと以下の波動カウントに切り替えます。

24 年 8 月からの上昇第(5)波は 40,398 円(12/27 高値)を以て終わり—”truncated fifth”(短縮された 5 波)—プライマリー級の④波による調整が進行中とみられます。この場合日経平均は、いずれ 2 万 7000 円処(PBR1 倍水準)を試す可能性があります。

[予想 PER 別の日経平均水準]

5 月 8 日の日経平均予想 PER は 14.90 倍、予想 EPS は 2478 円。

過去最高の EPS は 2564 円(2/13)です。



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ日足 エリオット波動分析】

36,611 ドル(4/7 安値)からの上昇は、第(4)波あるいは第(2)波のリバウンド局面に位置付けられます。

5 月 8 日は一時 659 ドル高となりましたが、その後は上げ幅を縮小し 254 ドル高で引けました。この日の高値(41,773 ドル)は昨年高値からの下げ 61.8%戻り水準[41,841 ドル]に近いものでした。

目先の上値試しが継続する場合、4 月 2 日終値の[42,225 ドル]—「トランプ関税発動」で生じたマドを埋める水準—を試す可能性があります。42,200 ドル付近は 200 日 MA の水準でもあります。

リバウンドは終わったか、終わりつつあるとみられます。

40,759 ドル(5/6 安値)を割ると最初の弱気トリガー発動、第(5)波あるいは第(3)波の下落トレンドの再開が示唆されます。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

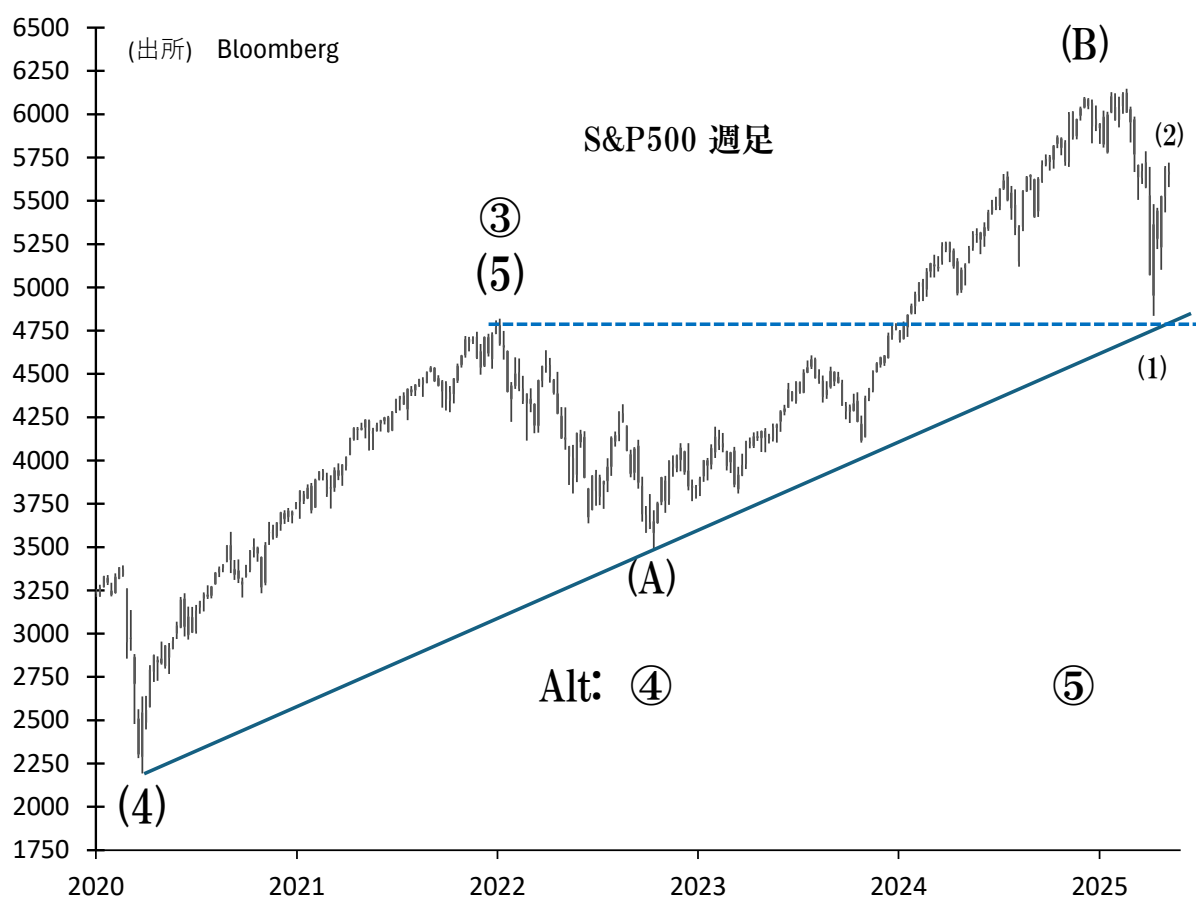
6128(1/24 高値)からの第(1)波による下げは、4910(4/8 安値)で終了したとみられます。4835(4/7 安値)よりも高くなったのは、第(1)波内の第 5 波が短縮したためでしょう。

4910 からは第(2)波に位置付けられ、パターンは A-B-C「ジグザグ」となっています。5101(4/21 安値)からは C 波の上昇が進行しています。

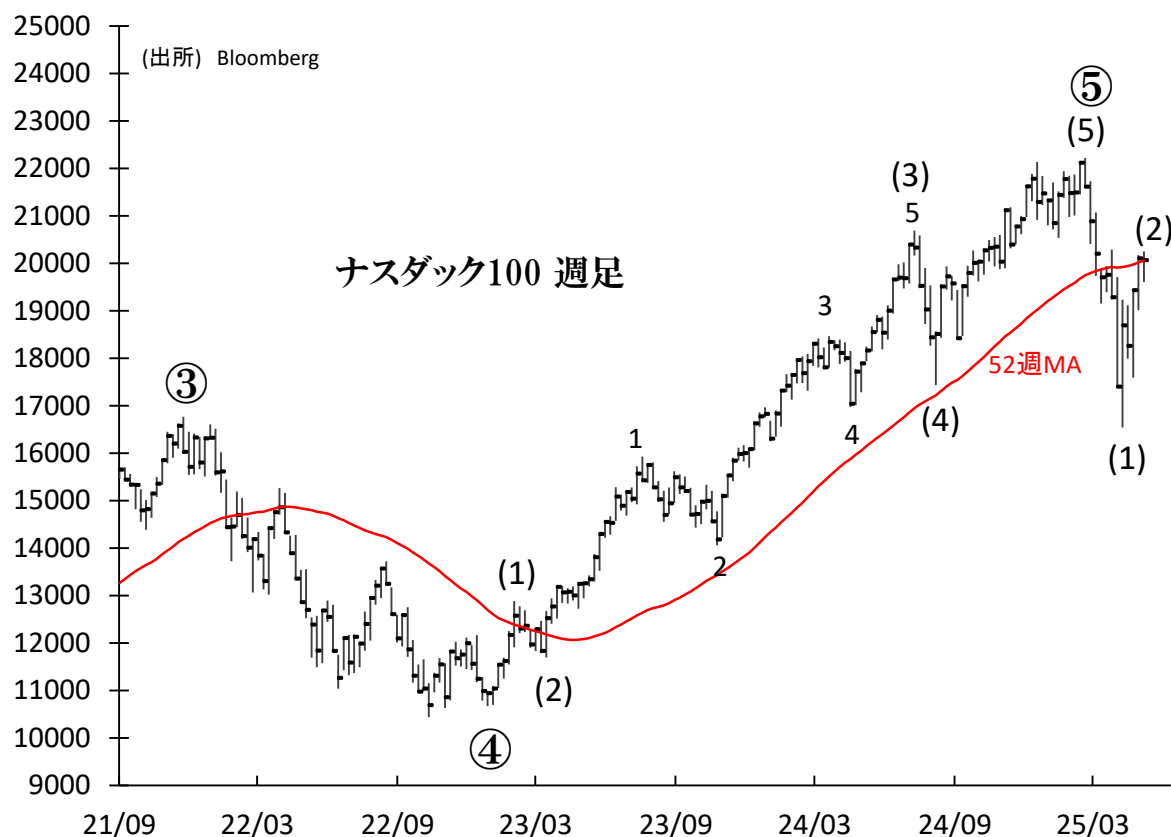
5 月 8 日には一時 5720 まで上昇し、200 日 MA(5747)に接近しました。

引き続き 200 日 MA や、5786(3/25 高値)などを試す可能性はあるでしょう。しかし 4835(4/7 安値)からの第(2)波リバウンドは終わりつつある、と思われます。

5578(5/7 安値)を割ると最初の弱気トリガー。この場合、第(3)波による下げスタートが示唆されます。



ナスダック



【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

ナスダック 100 は 25 年 1 月高値(22,222)以来、サイクル級の調整局面にあるとみられます。

振りかえると、21 年～22 年にあったプライマリー④波の下げ率は、ナスダック 100 とナスダック総合指数のいずれもが 37.7%でした(フィボナッチ比率 38%に合致しています)。

この先ナスダックは 1～2 年内に高値から 38%下げてもおかしくありません。

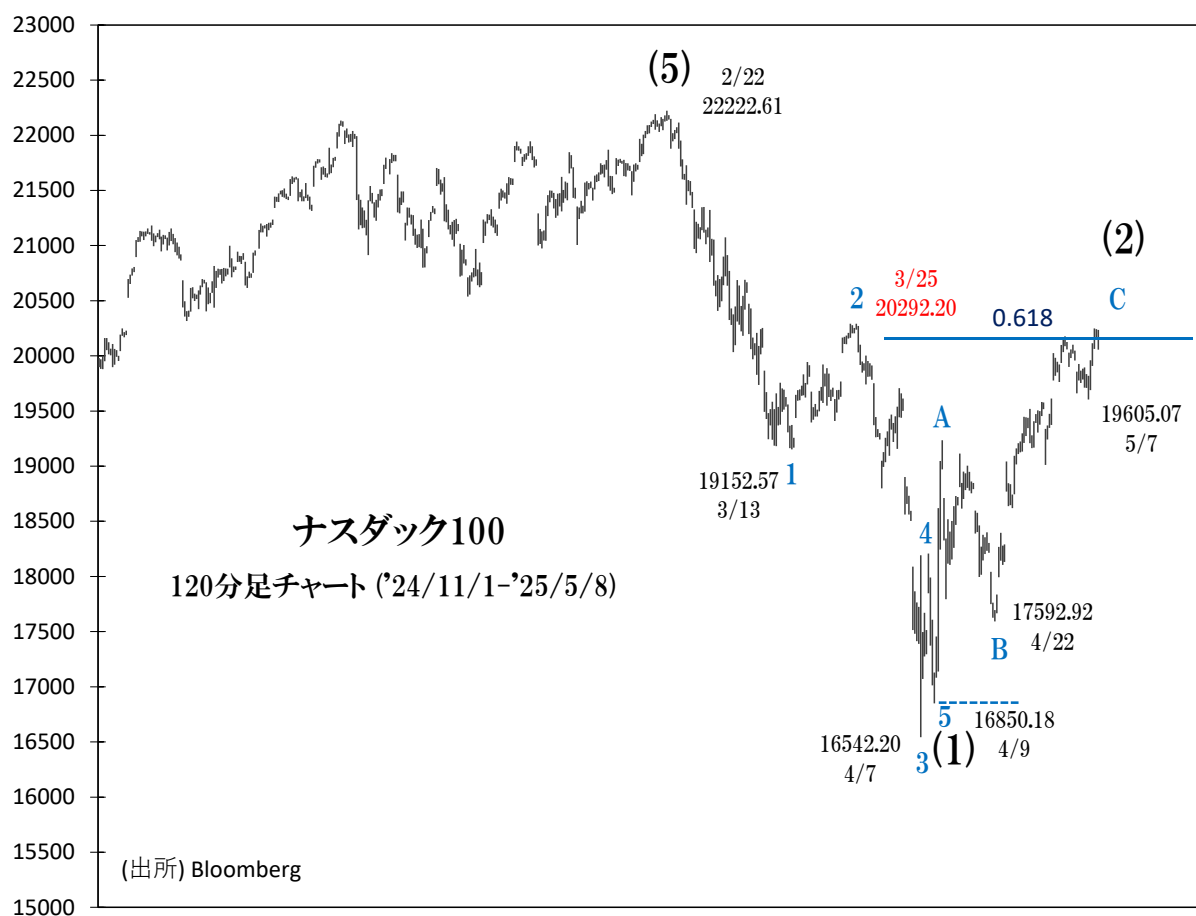
高値から 38%下げる水準は次の通りです。[ナスダック 100]…13,777、[総合指数]…12,527

サイクル級の調整は、プライマリー級より上位の波動等級(ディグリー)であり、ディグリーが大きくなるに従い調整スケールも大きくなるのが通常です。今後 2～3 年タームでみれば、高値からの調整が 38%より大きくなっても違和感はありません。

エリオット波動からは、ナスダック 100 の長期下値メドとして適当とみられるのは、[10,440]—レッサー・ディグリー④波安値水準—です。

4 月からは第(2)波によるリバウンドとみられます。それは 52 週 MA 水準で完了することになるかもしれません。





【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

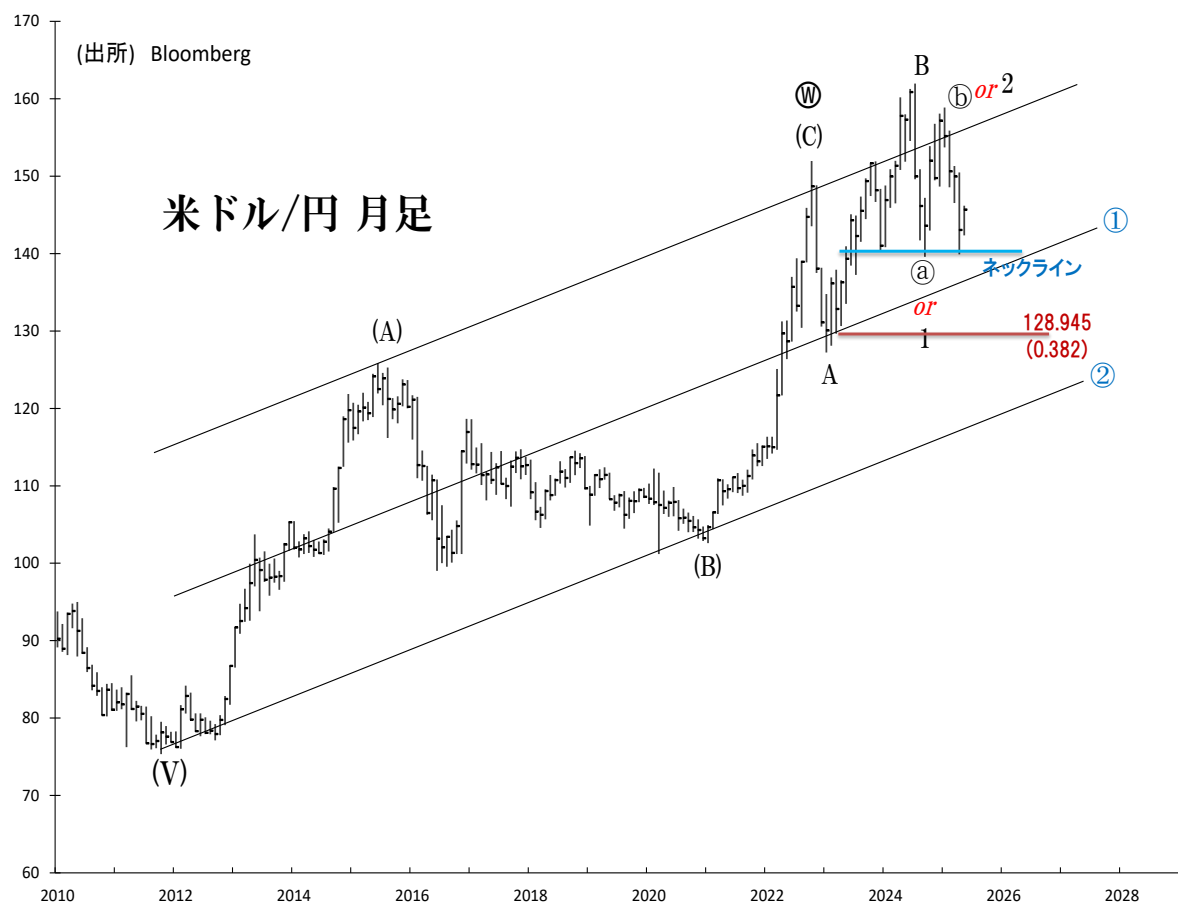
2 月高値(22,222)からの下落第(1)波は、16,850(4/9 安値)で完了したとみられます。名目安値の16,542(4/7)に対し、第(1)波における第 5 波が短縮され、第(1)波の終点が少し切り上がりました。

足元は第(2)波によるリバウンドとカウントでき、パターンはジグザグ(A-B-C)です。17,592(4/22 安値)からの上昇は C 波に当たります。

5 月 8 日には一時 20,249 と 2 月高値からの下げ 61.8%戻り[20,052]を達成しました。

19,605(5/7 安値)を割ると、第(2)波の完了及び第(3)波下落トレンドの開始が示唆されます。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

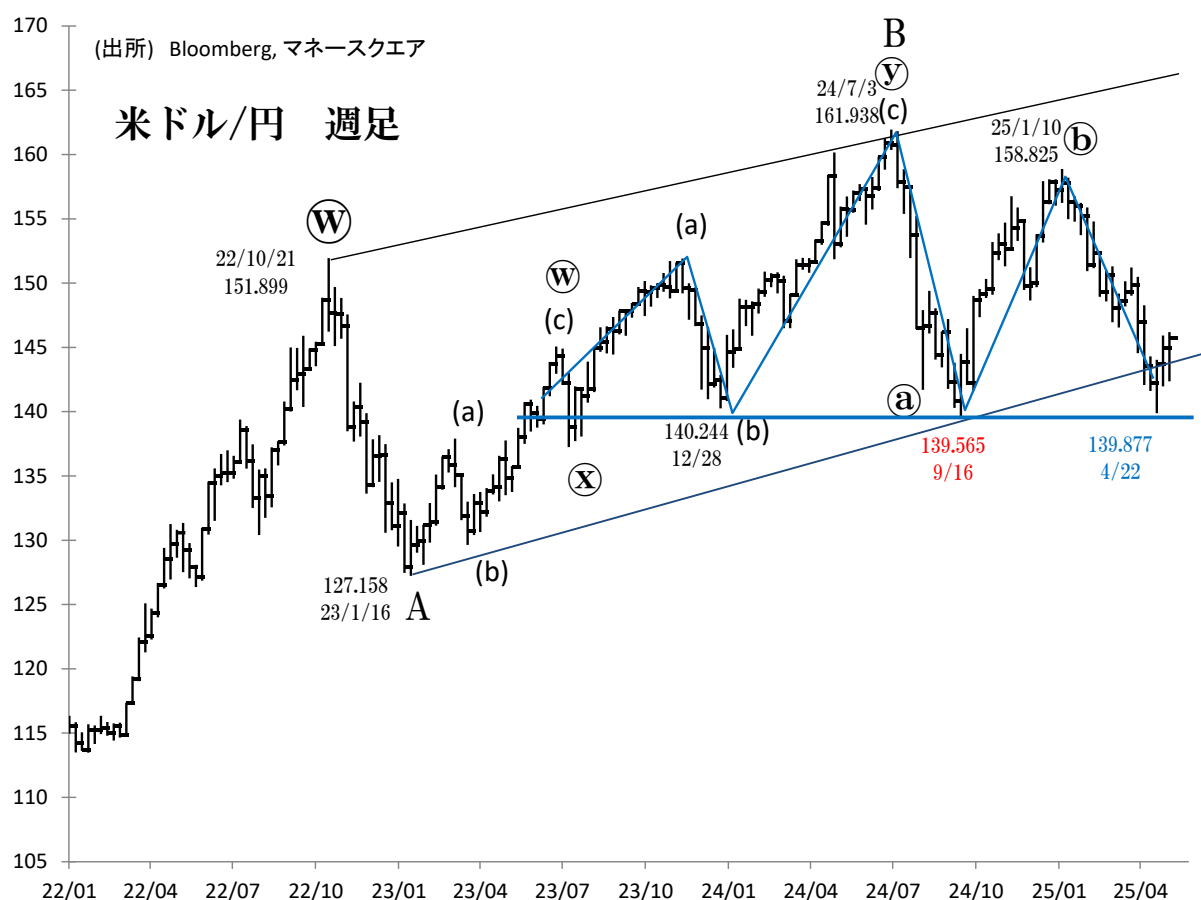
151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、まずは 2011 年からの上昇チャネルのセンターライン①136.680 円(5 月)がサポートレベルとみられます。

もっとも 139 円処を下抜くとヘッド・アンド・ショルダーズ型の天井パターンから下放れ始め—上述したセンターラインで底入れせず—フィボナッチ・サポートの[128.945 円]を試す展開もありそうです。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は 117.050 円(5 月)です。



【週足 エリオット波動分析】

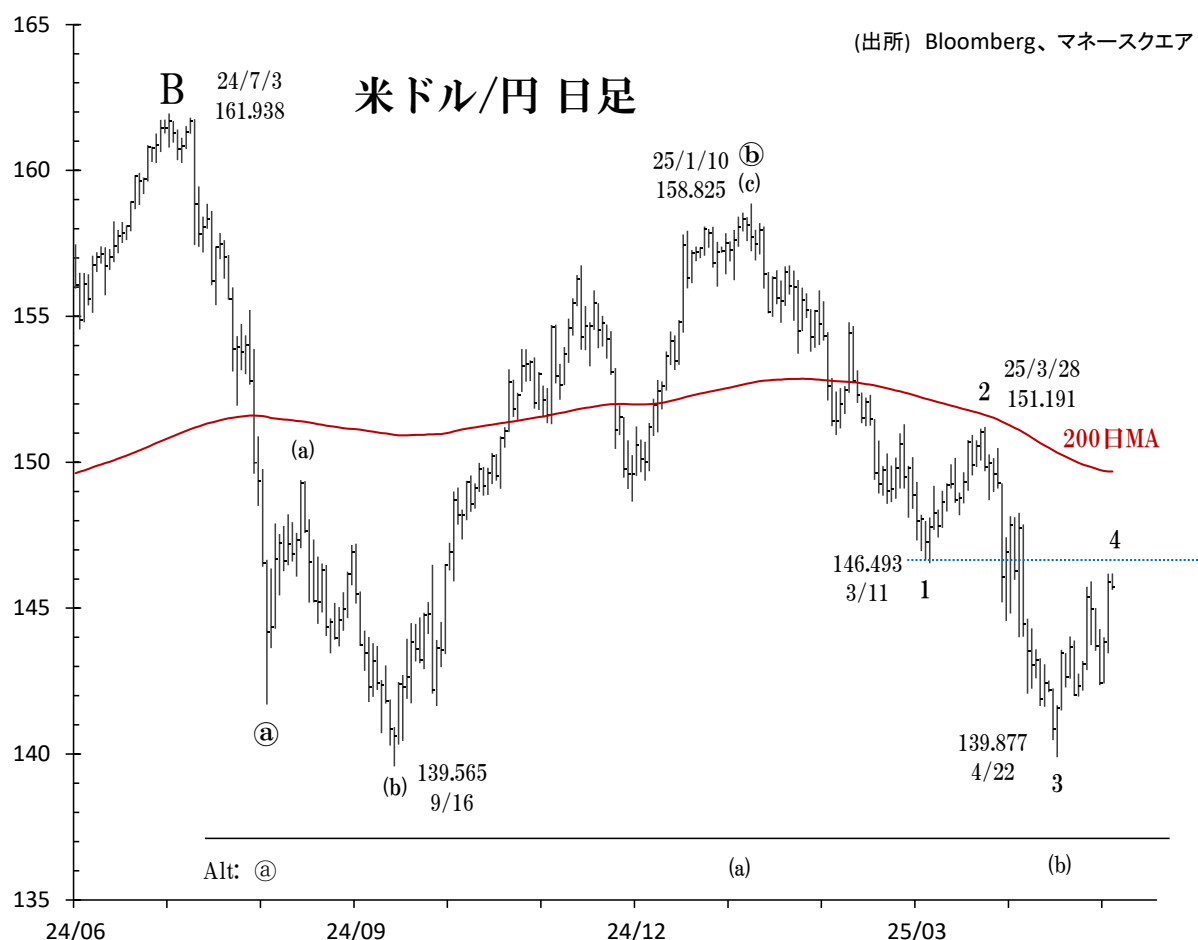
161.938 円(24/7/3)からはC波によるドル安・円高トレンドです。C波は三波構成(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)が(先ずは)想定され、158.825 円(1/10)からⒸ波によるドル安・円高が進行中とみられます(Ⓒ波の代わりに第3波というカウントは可能ですが、その確証はまだありません)。

139.877 円(4/22)からはリバウンド傾向が続いています。リバウンド上限は 146.493 円とみていますが、それを上回ると短期の見通しが変わります(後述)。

146.493 円を抜けない限り、今後1カ月～3カ月で[138.517 円-136.452 円]を試してもおかしくありません。

[138.517 円]…Ⓐ波とⒸ波が等しく下がる水準

[136.452 円]…24年7月から9月までドル/円下落幅と、今年1月からのドル/円下落幅が等しい



【日足 エリオット波動分析】

139.877 円(4/22)からは、㉔波中第 4 波のリバウンドとみています。

この波動カウントが正しければ、第 1 波と第 4 波が重なることはありませんので(ノー・オーバーラップ)、146.493 円が現行リバウンドの限界とみられます。

足元ドル/円は 146 円台へ上昇しており、**リバウンドはいつ終わってもおかしくない**と思われます。

一方見通しと異なり、**146.493 円を一時的にも上回る場合は短気波動カウントを改めます**。

複数存在する代替波動カウントの中から、主なものを以下に示してみましょう。

代替カウント①

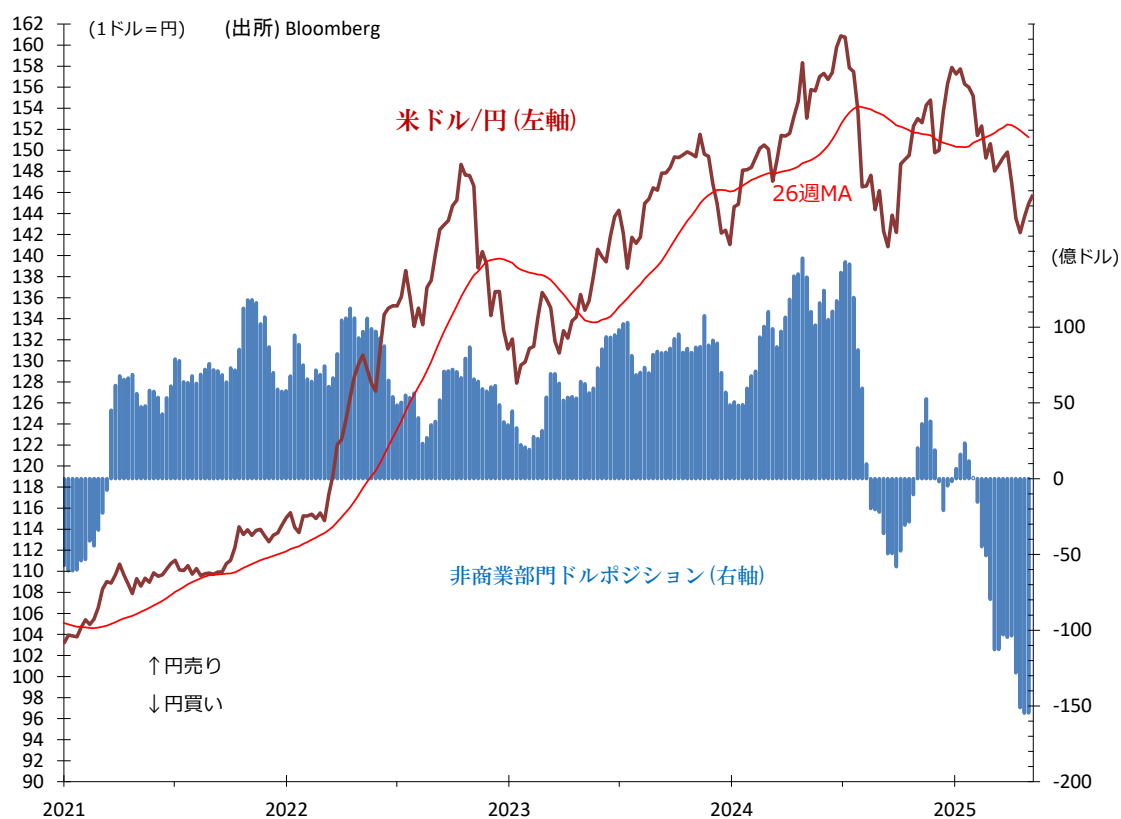
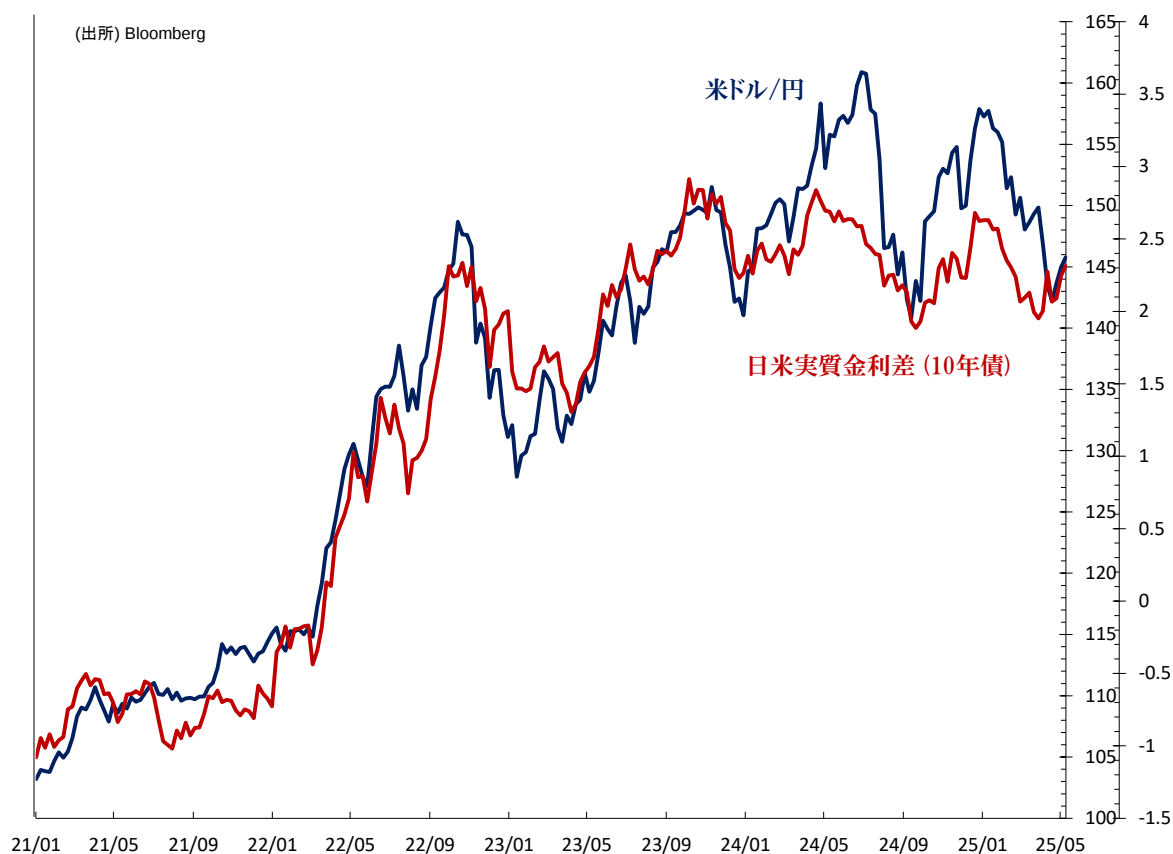
1 月からのマル i 波が 139.877 円で完成し、足元はマル ii 波によるリバウンドです。マル ii 波は 200 日 MA の位置する 150 円付近から 151.191 円(3/28)を打診するかもしれません。

代替カウント②

㉔波はトライアングルを形成中です。足元は㉔波-(c)波と位置付けられ、152 円付近へさらにドル/円が上昇する可能性があります。

金利差からのドル/円推計値

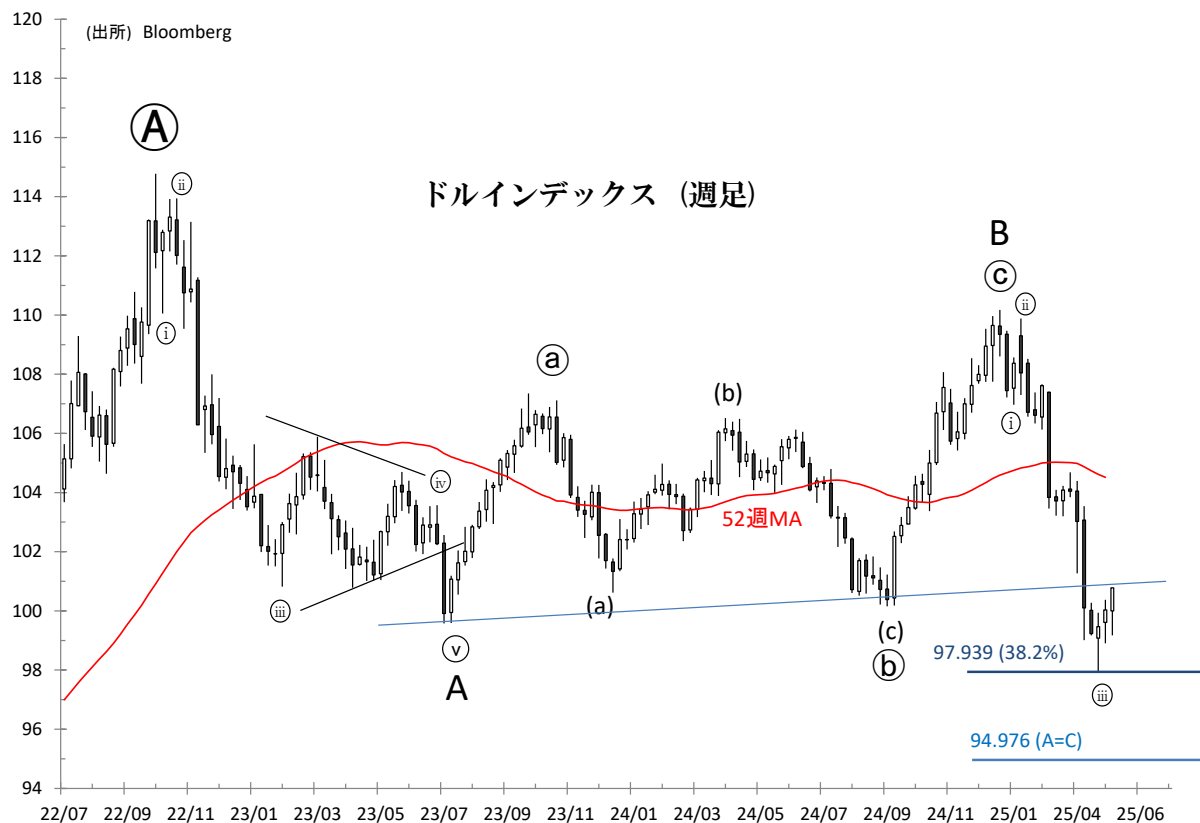
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[147.486 円]です。



投機筋の円買い持ち高は 4 週連続増加(2025 年 4 月 29 日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は 4 週連続増加。円買い持ちは前週の 157.0 億ドルから 157.4 億ドルへ増え、過去最大の水準をさらに更新しました。

ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

ドル指数は 4 月 21 日安値(97.921)を以て、フィボナッチ・サポート[97.939](08 年からのドル高に対する 38.2%戻り水準)をちょうど達成しました。そこからはリバウンドとなっていますが、それは C 波中マル iv 波に相当すると思われます。

マル ii 波がジグザグだったことから、マル iv 波は保ち合い相場となりやすいでしょう。保ち合いの後には、C 波中マル v 波のドル安基調が再開し、**[94.976](A=C)**を試すことでしょう。

一方、C 波自体が終了している可能性もあります。

この場合、22 年からの A-B-C ジグザグは完成し、それに続く(X)波に入ったとみられます。(X)波によってドル指数は、今後の数カ月タームで上昇するでしょう。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4% 以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10% です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
